

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	59人	国語B	59人
② 算数A	59人	算数B	59人
③ 理科	59人		

5 留意事項

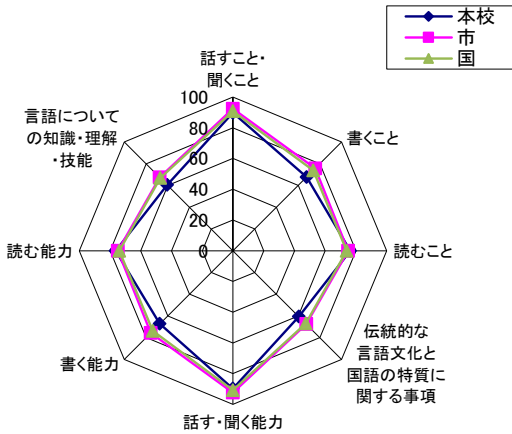
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

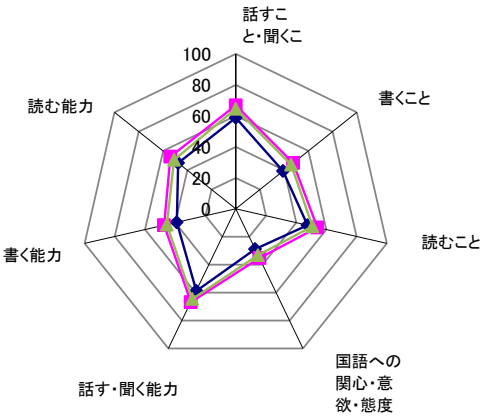
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	89.8	92.4	90.8
	書くこと	67.8	75.7	73.8
	読むこと	76.3	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.6	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	89.8	92.4	90.8
	書く能力	67.3	75.7	73.8
	読む能力	76.3	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	60.6	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.8	66.8	64.6
	書くこと	39.0	47.4	45.6
	読むこと	47.5	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	28.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	58.8	66.8	64.6
	書く能力	39.0	47.4	45.6
	読む能力	47.5	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

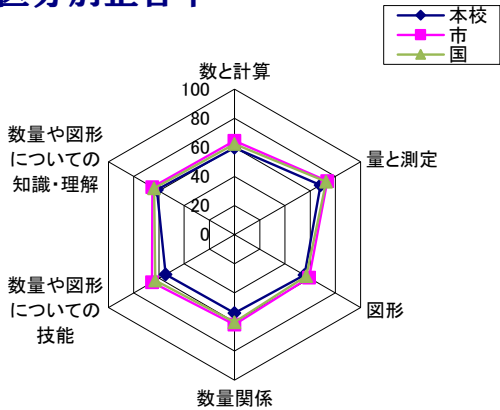
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aでは全国平均を1ポイント、国語Bでは5.8ポイント下回っている。 ○目的や意図に応じて、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことを問う設問の正答率は、全国平均とほぼ同等であった。 ●話し合いの参加者として、質問の意図を捉えたり、計画的に話し合うために司会の役割を捉える設問では、それぞれ全国平均を4.5ポイント、2.9ポイント下回った。	・授業中だけでなく、普段の生活の中でも話をしっかり聞く習慣を身に付けさせるよう、話を聞くことの大切さを引き続き指導していく。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に全員が積極的に参加できるように、隊形や人数を工夫しながら更に話し合い活動を充実させていく。
書くこと	平均正答率は、国語Aでは全国平均を6ポイント、国語Bでは6.6ポイント下回っている。 ●紹介する文章を基にして、おすすめする文章を書くときの工夫として適切なものを選択する設問では、全国平均を14.9%と大きく下回った。 ●話し手の意図を捉えながら、与えられた条件に沿って自分の意見を記述する設問では、全国平均を10.1ポイント下回り、無回答率も高かった。	・書くことに苦手意識を持つ児童が少なくないので、興味のある話題や書きやすい題材を設定するなど、自分から積極的に書きたいと思う場を設定していく。 ・100字作文や50字で自分の考えを書くなど、字数や条件を意識して文章を書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、国語Aでは全国平均を2.3ポイント上回り、国語Bでは2.5ポイント下回っている。 ○登場人物の心情について、情景描写を基に捉える選択式の設問では、全国平均を4ポイント上回っている。 ●どのような目的で、複数の本や文章などを選んで読んだのかを問う設問では、全国平均を5.3ポイント下回っている。	・朝の読書などの読書指導や日々の音読指導を引き続き行っていく。 ・多種多様な読み物に触れさせることで、心情をとらえる力の向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国語Aで全国平均を6.4ポイント下回っている。 ○適切な敬語を使用している文章を選択する問題では、全国平均を5ポイント上回っている。 ●基の文章で使われている漢字と同じ漢字を使用する文章を選択する設問では、いずれの問題も全国平均を下回り、無回答率も高かった。	・漢字練習には引き続き毎日取り組ませるが、平日頃から正しい漢字を書き、文章の中で使おうとする習慣を身に付けていく。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

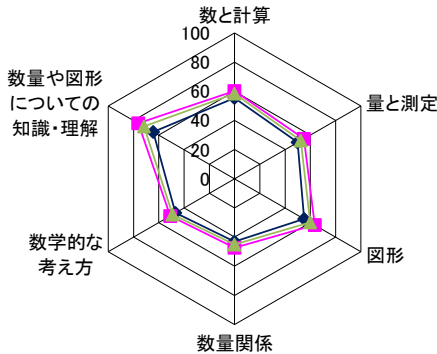
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.7	64.5	62.3
	量と測定	68.2	73.6	72.7
	図形	55.4	59.1	56.9
	数量関係	53.9	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	54.6	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	61.6	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.4	60.2	58.4
	量と測定	50.0	55.0	52.4
	図形	55.1	63.5	59.9
	数量関係	43.1	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.7	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	64.4	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

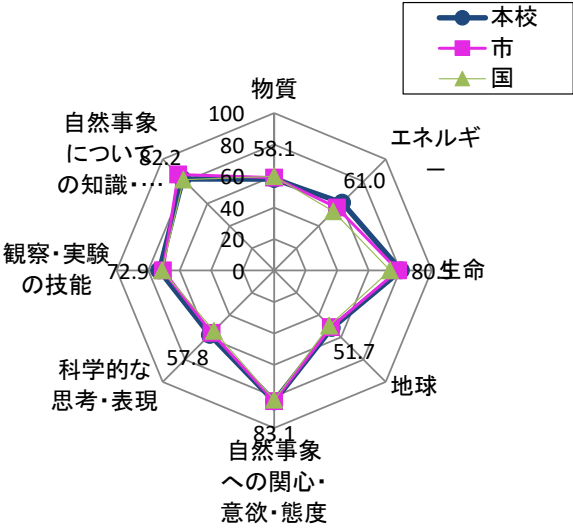
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aでは全国平均を2ポイント、算数Bでは全国平均を3ポイント下回っている。 ○除法で表すことができる二つの数量の関係についての設問では、全国平均とほぼ同じ結果である。 ●小数の除法の意味についての設問では、全国の傾向と同じではあるが、7ポイント下回る結果となった。	・授業や朝の学習タイム、家庭学習等で、計算スキル・プリント等を活用し、正しく確実に計算ができるよう繰り返し指導してきた。児童の実態に応じた指導を充実させ、基本的な計算の定着を図りたい。 ・各単元の学習で、数直線上の数量を読み取ったり、数直線上に表したりする内容を丁寧に扱う。また、日常生活などさまざまな場面で数の大小について意識させ、数の理解を深めていけるようにしたい。
量と測定	平均正答率は算数Aでは全国平均を4ポイント下回り、算数Bでは全国平均を2ポイント下回った。 ○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方(密度)の設問では、全国平均を4ポイント上回っており、理解されていると思われる。 ○180°の角の大きさの設問では、正答率は96%であり、全国平均を2ポイント上回った。 ●単位量当たりの大きさを求める式と商の意味を尋ねる問題では、正答率が低かった。単位当たりを求める際に、意味を考えながら除法をすることができていない。 ●180°より大きい角度を分度器で読む設問では、正答率が全国平均よりも16ポイント下回った。	・重さ・長さ・角度などについて、学習したことで身の周りにある事象とを結び付け、実感的なものとしていけるよう、さまざまな場面で意識できるようにしていきたい。 ・単位当たり量を求めるしかたや、百分率の求め方について理解を深め、確実に求めることができるよう復習をし、習熟を図る。また、問題文を丁寧に読み取ることの指導も必要である。
図形	平均正答率は、算数Aは全国平均を1ポイント、算数Bでは全国平均を4ポイント下回った。 ○示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現する設問では、全国平均を1ポイント上回った。 ●円周率を求める設問で、円周率の意味を答えさせるものでは、正答率が全国平均より4ポイント下回った。	・円周率や円周の長さを求める際には、図形の定義や性質をもとに考え説明できるような指導をしていくとともに、単元以外でも折に触れて意識させる。 ・図形に関する知識についての理解を深めるために、復習を徹底したい。
数量関係	平均正答率は、算数Aでは全国平均を6ポイント、算数Bでは全国平均を2ポイント下回った。 ●百分率を求める設問や、折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題では正答率が全国平均よりも大幅に下回り、無回答率は高かった。	・百分率の求め方や割合、グラフの読み取りなどについては、復習を繰り返し、基本的な学習内容の定着に努める。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	58.1	59.0	59.8
	エネルギー	61.0	56.4	53.1
	生命	80.5	78.6	73.6
	地球	51.7	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	83.1	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.8	56.1	54.1
	観察・実験の技能	72.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	82.2	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、全国平均より2ポイント下回っている。 ○より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察す設問では、正答率が全国平均より4ポイント上回っていた。 ●物を水に溶かしても全体の重さが変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できることを理解しているかを問う設問では、正答率が全国平均より大きく下回っており、理解が不十分であることが考えられる。	・児童の実態に応じた指導を充実させ、基本的な知識の定着を図りたい。 ・食塩水の重さの問題について復習を行い、理解を深められるようにしたい。
エネルギー	平均正答率は全国平均より8ポイント上回っている。 ○より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察する設問では、8ポイント、乾電池のつなぎ方と電流の向きの関係を問う問題では、9ポイント、太陽の1日の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったモノづくりに適用できるかを問う設問では、全国平均より18ポイント上回った。 ●電流の実験において、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかを問う設問は、全国と同じ傾向であり、ポイントは上回ったものの理解は十分ではないことが考えられる。	・エネルギーの分野では、実験や学習したことと身の周りにある事象とを結び付けて考察できる力がついてきていると思われる。生活に結び付け、より実感的なものとしていけるようにしていきたい。 ・授業内での活動や板書の仕方を工夫し、実験の結果を見通して構想できる力や実生活に結び付けられる力を養えるようにしたい。
生命	平均正答率は、全国平均より7ポイント上回っている。どの設問でも全国平均を上回っており、概ね理解されていると考えられる。 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解しているかを問う設問では、全国平均を10ポイント上回っており、概ね理解できていると考えられる。 ●人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する設問は、正答率は全国平均を13ポイント上回るものの70%であり、十分な理解とは言えない。	・人体の仕組みに関しては、復習を行い知識の定着を図る。
地球	平均正答率は、全国平均を2ポイント上回っている。 ○実験に関して複数の情報を関連付けながら分析して考察する設問では、全国平均より9ポイント上回った。 ●より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察した内容を記述したり、実験結果から言えることを考えて内容を記述する設問では、正答率が低く、また無答率も高く、課題がある。	・授業の中で、実験や観察の結果を文章でまとめ、発表をする場を多く設けることで、文章で記述する力を身に付けられるようにする。 ・実験を通して検証する方法は全体ではなく、少人数で行うなど指導形態の工夫をする。 ・正答率が低かった「流れる水の働き」の既習事項に関しては、復習を促し、学習内容が定着できるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童は45.8%、「先生はよいところ認めてほめてくれる」と答えた児童は64.4%と全国平均をそれぞれ4.6%、21.9%上回っており、高い自己肯定感を有していることがうかがえる。今後も学習、生活それぞれの場面で児童の活躍の場を設けながら、適宜褒めることで自分に自信をもって学校生活を送れるよう支援していきたい。

○「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童は35.6%と全国平均を7.9%上回っており、家庭での自主学習の習慣化を図る中で予習・復習をしていることがうかがえる。今後も、家庭学習カードを活用したり、自主学習の中で予習・復習をしている児童を取り上げ紹介することで、予習・復習をする児童が増えていけるよう支援していきたい。

○算数が「好きである」「大切だと思う」「将来に役に立つと思う」と回答している児童の割合が、全て全国平均を上回っている。児童は、算数の学習に楽しんで前向きにかつ必要感をもって取り組んでいると考察できる。今後も児童が意欲的に取り組める、楽しい授業づくりを継続していきたい。

●「学校のきまりを守っている」と答えた児童が28.8%と全国平均を15%も下回っている。再度、学校のきまりを確認させ、これからどのようにしていけばいいのかを一人一人に考えさせることで「きまりを守っている」と胸をはって言える児童が増えるように支援していきたい。

●「放課後や週末にゲームをしたり、DVDを観て過ごす」と回答した児童の割合が全国平均に比べて高かった。ゲームやテレビの時間を決めたり、制限を設けたりするように家庭に働きかけたり、児童へのアウトメディアを呼びかけたりするなど工夫していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化と内容の充実	・家庭学習の手引きを活用した指導 ・学校で統一した家庭学習カードの活用 ・学年に応じた自主学習の内容の提示 ・年間2回の家庭学習強調週間の実施 ・保護者への啓発	質問紙調査で ・「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童は35.6%と全国平均を7.9ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語と算数すべての観点で全国平均を下回っている。	・基礎基本の定着を図る指導の充実。	○各学年の学習内容を着実に身に付けさせる。 ・漢字、言葉の学習時間の確保 ・文章を正しく読み取る、丁寧に読み取る活動 ・書く活動の継続 ・計算力の向上 ・発展的な問題に十分な時間を確保して取り組ませる。 ○身に付けた知識を生かして様々な形式や条件の問題に取り組ませる。